

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.45

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

陸前高田市の夏祭りを支援しました

8月7日～16日にかけて陸前高田市各地では夏祭りが開催され、岩手大学三陸復興サポート学生委員会は、和野地区および下矢作地区での夏祭りに参加しました。

学生委員会はチームを組織し、和野地区では山車の運行や納涼祭の準備、灯籠七夕が40年ぶりに再開された下矢作地区では出店や練習を重ねた篠笛演奏での参加などを通じ、多方面での支援に取り組みました。

お祭りは「多様な世代」が地域参画することができる機会であり、被災地のコミュニティ形成にもつながっていきます。一方、運営側の高齢化、若い世代の参画の難しさなど課題も多く見られ、開催自体が危ぶまれるケースもあります。学生委員会では、このことから「多世代が参画できるコミュニティ形成の支援」という点に着目し、これ



山車の上での篠笛リハーサル中の委員
(左から福田菜さん、篠崎有花さん、及川航さん)

までも同市の夏祭りに参加してきました。

また、陸前高田市では他に、NPO法人P@CT（パクト）と連携し、みちくさルームで子どもの居場所づくりの支援活動を行っており、今年はさらに、父母向けの新たな活動も検討しています。

震災から5年目を迎え、学生委員会は、細く長く支援を継続していくため「活動に多様な視点を取り入れること」をテーマに掲げ、様々な機関と連携を深めながら支援を展開していきます。



40年ぶりの運行に向け気合十分の委員たち

三陸復興サポート学生委員会の活動の様子は
Facebook からご覧いただけます。

<https://ja-jp.facebook.com/sanrikuvolunteer>



オープンキャンパスにおいて復興推進の取組を紹介しました

8月6日、岩手大学の夏のオープンキャンパスが開催され、猛暑にも関わらず、前年から601名増加の5,646名が来場し、その中で本学の復興推進に関する取組についても紹介いたしました。

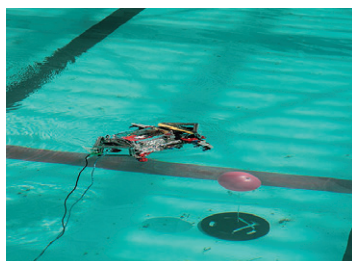
土壌改良支援

三陸復興推進機構農林畜産復興推進部門農地復興班では、陸前高田市で行っている、有機質資材を投入し、化学肥料を使わずにキュウリの多収栽培に成功した成果について、現地圃場で獲れたキュウリの試食とともに説明しました。



キュウリを試食してもらいながら説明する
工藤洋晃特任研究員

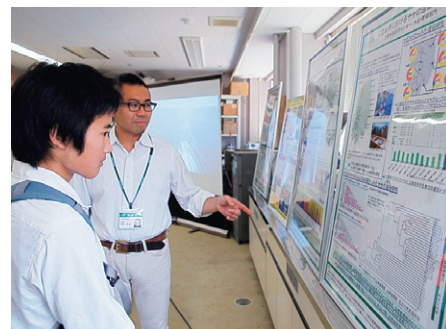
水中ロボット



ボールを目指して
進む水中ロボット

水産システム学コース

平成28年度から農学部食料生産環境学科に新設される水産システム学コースの紹介会場には、県内の他、中国地方や北海道等の県外からも本コースに興味を持たれた方が訪れ、教職員が学べる分野や教育体制等について詳しく説明を行いました。



高校生に説明を行う石村学志准教授

秋のオープンキャンパスは、10月17日（土）に開催されます。今回は不來方祭との同時開催になるため、様々な企画において本学が実施している復興推進に関連した取組を広くご紹介いたします。皆様のお越しをお待ちしております。

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、被災地の内部と外部のつながりとなるため、紙媒体の情報誌の刊行などメディアを活用して活動を進めている生活支援部門・地域コミュニティ再建支援班の活動の一例をご紹介します。

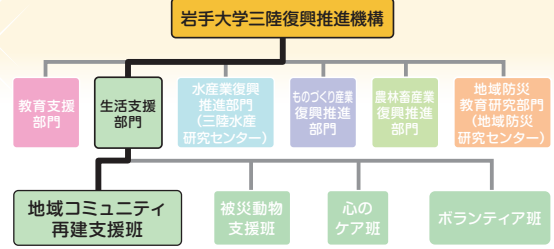
岩大E_codeプロジェクトの展開

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門 地域コミュニティ再建支援班
五味 壮平 (人文社会科学部 准教授)

平成24年4月以降、学生、教員の有志からなる岩大E_codeは陸前高田市において活動してきました。このプロジェクトは、「被災地の内部と外部のつながりとなり、被災地を中心とした拡大コミュニティの形成および発展を支援すること」を目的としています。紙媒体の情報誌の刊行とインターネットのソーシャルメディアの活用、そして直接的な交流などにより、市内外の人々との関係性をひろげてきました。

陸前高田を応援しようと無料情報誌『いいことマップ』を平成27年1月までに6号を発行しました。陸前高田訪問者の方々、陸前高田市民の方々、全国の陸前高田応援者の方々に手に取っていただいています。取材や配付のプロセスをきっかけとして、陸前高田ゆかりの様々な方々との交流が広がり、深まりました。人をつなぐ手段としてメディアを活用することの意義を感じます。

平成25年度は、陸前高田市内の各商店街、陸前高田市役所、商工会などの方々と連携して、ガイドブック『たかたび』の作成を行いました。作成にあたって「陸前高田ガイドブックキャンブ」というイベントを実施し、取材・執筆などに市外の方々に参画していただくというプロセスを踏みました。店舗等に関する情報を中心に盛り込み、94ページものかなりのボリュームの冊



子ができました。平成26年度には、その後オープンした店舗や宿泊施設を取り上げた小冊子『たかたび+(プラス)』を作成しました。最近では、陸前高田を訪問する人たちのガイドをする機会も増えています。

平成27年度は仮設商店街柵ヶ沢ベース店舗内ディスプレイや外国人訪問環境の整備に関するお手伝い、新冊子刊行などを計画中です。

私はこれまでの岩大E_codeでの経験と交流を盛岡での陸前高田ゆかりのコミュニティづくりや復興祈念公園、地方創生に関する行政委員の中でも生かしたいと考えています。

岩大E_codeは、今後も陸前高田市の人たち、全国の陸前高田市を見守る人々とのつながりの一つとして成長していきたいと思っています。



平成27年度 第4期 E_codeメンバー

★岩大E_codeの活動状況はこちらから

Facebook <https://www.facebook.com/ecoderg>

久慈エクステンションセンターだより

●洋野町でのウニ高付加価値化研究セミナーへの開催協力

このコーナーでは度々洋野町のウニに関する話題を掲載していますが、今回も洋野町のウニに関する話題です(原稿担当時期が不思議なほどウニの時期に合うのです・・・)。

7月13日、同町特産のウニのブランド化を進めている協議会「種市ウニぶるじゅくと」では、東京海洋大学の先生方を講師に迎え、同大が持つ研究技術の活用から、ウニ身入り品質の保証や新たな保存加工法による商品開発の可能性を話し合うためのセミナーを開催しました(本学三陸復興推進機構 後援)。

このセミナーは、本学、東京海洋大学、北里大学とで取り組んでいるSANRIKU水産研究教育拠点形成事業にて、東京海洋大の松川真吾准教授が行っている非破壊による水産物の身入り確認研究に関する情報交換を今年1月に行ったことをきっかけに開催されたもので、ウニを対象とした非破壊身入り確認技術の最新の研究報告と実用化の可能性についてを意見交換し、現場が求める技術水準を確認。また、ウニへ利用できる加工研究を同大・鈴木徹教授が紹介。特に根強いニーズがある生ウニの冷凍については、解凍後に生ウニと変わらない身質の再現が非常に難しいことをわかりやすく説明されました。

意見交換では報告内容以外にも積極的に質問がなされ、最後に東京海洋大・小川廣男特任教授(前理事・副学長)から、SANRIKU水産研究教育拠点形成事業での地域と研究



セミナーの様子(研究報告をする松川准教授)

機関との協力構築を進め、震災前と異なることへのトライが復興への道であることなど、三陸復興への期待が述べられセミナーを終了しました。

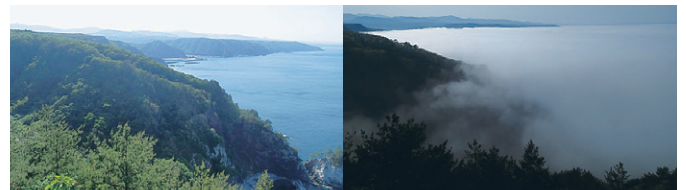
●久慈地域の見所紹介 ～普代村 黒崎灯台周辺～

久慈市から車で南へ約40分の普代村黒崎地区は、本州最東端の北緯40度線に位置する場所で、北緯40度のシンボル塔をはじめ、カリヨンの鐘、黒崎灯台、国民宿舎くろさき荘、オートキャンプ場があります。おすすめは国民宿舎くろさき荘で味わえる普代村特産の昆布を練り込んだ「こんぶ饅頭」を使った冷やし饅頭です。車で僅か5分とほど近い田野畑村の北山崎と合わせ、沿岸観光の際はぜひお立ち寄りください。



夏の味覚・冷やしコンブ饅頭。マグロ赤身やアボカド等をトッピングしています。

(写真提供: 普代村建設水産課)



黒崎展望台からの眺望。快晴時(左)とヤマセ発生時(右)では、景観が一変します。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 久慈エクステンションセンター

〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号 久慈市役所(2階) 政策推進課内
TEL: 090-2953-2519 E-mail: kujijext@iwate-u.ac.jp

Information

●岩手大学は久慈市・宮古市・大船渡市にエクステンションセンターを設置し、三陸沿岸全体の支援を行うため活動しています。各産業まつりに参加し、三陸復興推進機構の取組をご紹介しますので是非お越しください。

●久慈地方産業まつり

日時: 平成27年10月17日(土)～18日(日)
場所: 久慈市文化会館(アンバーホール)周辺

●大船渡市産業まつり

日時: 平成27年10月17日(土)～18日(日)
場所: 大船渡市民体育館

●岩手大学三陸復興推進機構企画展

「東日本大震災における岩手大学の復興推進活動 ～被災地とともに 希望の創出～」

入場
無料

日時: 平成27年10月21日(水)～11月4日(水) 10:00～17:00

会場: 岩手大学図書館アザリアギャラリー(1階)

内容: 三陸復興推進機構の取組を紹介する企画展の他、三陸沿岸に関わる物販も行います(土日祝日)。詳細は岩手大学ホームページでお知らせします(<http://www.iwate-u.ac.jp/>)。

問い合わせ先 岩手大学三陸復興推進課

電話: 019-621-6629 メール: sanriku@iwate-u.ac.jp